

事業報告書

第9期

自 2023年4月1日
至 2024年3月31日

The logo for ACAS, consisting of the letters 'A', 'C', 'A', and 'S' in a stylized, blue, sans-serif font. The 'A' and 'C' are connected, and the 'A' and 'S' are also connected.

一般社団法人新CAS協議会

一般社団法人 新CAS協議会
2023 年度 事業報告
【2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日】

1. はじめに

一般社団法人 新CAS協議会は、4K・8K衛星放送（4K・8K放送）に対応する放送コンテンツの保護管理に必要なCASシステム（ACAS方式）を開発し、テレビ受信機等にICチップ（ACASチップ）を実装するACAS方式の普及に取り組んでいる。

ACASチップを採用する製造メーカーは、これまでに国の内外のTVメーカー30社以上となり、市場に供給されるACASチップ搭載のテレビ受信機は遠からず2,000万台に達する見込みである。

一方で、2018年の運用開始から、市場におけるACASチップ・ACAS方式に起因する製品故障は、前年度までに続き非常に少ない件数で推移しており、方式としての安定性及び部品としてのチップの信頼性は高い状態で維持されている。

2023年度は、コロナ禍における世界的な半導体需要の急速な高まり等によるTV製造部品の供給不足に加えて、放送から通信へという映像コンテンツの視聴形態の変化が重なり、国内の新規TV需要の減少傾向に拍車がかかった。

当協議会が発行するID鍵の数も年度内で250万件余りと通常期の半数程度に留まった。協議会の発足以来で最も少ない数となったが、コロナ禍の終息に伴い、下期には通常期に近い数まで回復傾向にあり、来期以降に期待がかかる。

また、ACAS方式のダウンロードによるプログラムの更新機能という従来方式（カード形式）にはない特性を生かし、2KテレビでのACASチップの利用を可能とするよう受信機製造にかかわる規定の改定に着手した。製造メーカーへの説明にも着手しており、今後一層の協力体制を確立しながらACASの更なる普及に取り組む。

通信による映像コンテンツ視聴の拡大は、TV機能の拡充を促し、放送コンテンツの一層の充実が求められることから当協議会の使命と役割はその重要度を増すことになる。

より多くの視聴者が、高品質の映像コンテンツを安心して楽しめる環境の維持は、当協議会が担う重要な責務である。幅広い分野の事業者と連携しながら引き続きACAS方式の安定的な運用と普及に力を注いでいく。

2. 事業方針

【2-1：技術部】

技術部では、4K・8K放送の更なる普及に向けて、関係機関等と連携を図りながら放送コンテンツを適切に保護するための仕組み（ACAS方式）の安定運用及び継続的なセキュリティ維持・管理に関する業務を進めた。

ACAS方式は、4K8K衛星放送開始から5年以上の期間を経て、引き続き安定運用を継続しており、ACASチップについても、故障が少なく良好な品質を維持している。

① ACAS方式の運用

ACAS方式の安定運用を図るため、同方式の実運用対応を着実に進めた。2023年度は、ACASチップを2K受信機においても利用可能とするために、ARIB（一般社団法人電波産業会）標準規格改定案の策定作業を進めた。

また、CASダウンロード機能の技術検証の一環として、ケーブルテレビ局向けSTB用送信設備などの検証環境を整備した。

今後、ACAS方式のセキュリティ機能に関する実用性検証を継続するとともに運用性向上のための技術検討を進めながら、放送局設備、受信環境及びACASチップ等における適切な方式運用を推進していく。

② 関連設備の運用

鍵管理システム等の各設備において、セキュリティ管理及び安定運用に努め、鍵データ発行等への継続的な対応を行った。

2023年度は、B-CAS鍵管理センタ更新（2023年10月）に関連し、セキュリティ管理規程の改定及びケーブルテレビ事業者への対応等を行った。

③ セキュリティの維持・管理

運用フェーズにおける継続的なセキュリティ維持の取り組みとして、鍵発行サイト等のセキュリティ点検、新たな脅威の調査並びにACASチップの第三者セキュリティ評価（脆弱性評価）等を実施した。

2023年度は、ACASチップに対して、新たなセキュリティ脅威を想定した侵入テストを実施し、同チップのセキュリティ対策の有効性を確認した。

また、当協議会のセキュリティ維持管理施策として、セキュリティ機能の強化を目的としたネットワーク機器の更新・拡充を図った。

④ 技術仕様等の整備

受信機メーカー及び放送事業者等に向けたACAS方式に係る技術仕様並びにACAS方式運用及びセキュリティ維持に関わる規程等の策定と維持管理を引き続き進めた。

2023年度は、新ACASチップの発行に伴い、受信機メーカー向け技術仕様書の改定を行った。

⑤ 関係機関等との情報共有

ACAS方式の普及と維持管理を目的とし、放送事業者、ケーブルテレビ事業者、受信機メーカー、CASベンダー及び関係機関等との情報共有と連携を図った。

⑥ 技術委員会等の運営

技術委員会等の適正な会議運営を図り、ACAS方式に関する技術情報の共有、迅速な課題解決を図った。

【2-2：技術企画部】

技術企画部では、ACASチップ向けKm鍵の発行に関わる各業務について引き続き高い精度での運用を実施した。

また、技術部と連携し関連業務の課題検討を行い、必要な業務改善を継続的に実施した。

① Km鍵発行業務

Km鍵の発行業務について関係先の協力のもと運用部と連携し、主要業務としての信頼性を担保し、4K・8K放送の普及拡大が円滑に行われる一助となるべく、正確な鍵発行業務を実施した。

② Km鍵及びACASチップの在庫管理集計業務

販売会社から報告される発行済みKm鍵の使用状況とACASチップの販売状況について、在庫管理規程に沿った運用が行なわれ、且つACAS方式のセキュリティ維持要件に適うデータの蓄積と集計を行った。

また、増大するデータ量に対応するべく、ACASチップ発行ID番号管理業務と一体で管理手法・手順の見直しを実施した。

③ ACASチップ発行ID番号管理業務

ACASチップ発行ID番号管理について、Km鍵発行業務と密接に関わるため、相互のシステムで連携をとりながら、精度の高い業務遂行を行った。

また、Km鍵発行数量及び発行IDの集計データを有効に運用管理し、適切な情報共有を適宜で実施した。

【2-3：運用部】

運用部では、ACASチップ搭載受信機器の更なる普及を促進するとともに、関係者間の連携を維持し、必要に応じて拡大を検討した。

また、放送事業者や関連団体、企業と連携し、視聴者が4K・8K放送を安心して視聴できる様、具体的な説明環境を整備する活動を進めた。

① ACASチップ搭載受信機器の更なる普及拡大

ACASチップを搭載した受信機器の更なる普及拡大のため、関係各社との連携と、円滑な流通ルートの維持、緊急時の備えのための調整を継続して行った。

また、新たなメーカーがACASチップ製造メーカーとして参入検討できるよう、各種参入条件の検討、策定を継続した。

② 視聴者、関係者への丁寧な説明

関係する団体や受信機器メーカー、放送事業者等と連携することにより、

視聴者への適切且つ丁寧な説明を行うとともに、コールセンター等の必要な環境の効率的な整備・充実を図った。

③ 運用委員会等の運営

運用委員会等の会議運営を通じ、会員各社と協力しながらACAS方式の安定運用と、事業費の適切な運用についての課題に対応した。

【2-4：総務・経理部】

総務・経理部では、当協議会運営に関わる体制の整備・充実の取り組みを更に進めた。

① 法人ガバナンスの強化

公益的な立場から、ACAS方式の管理維持を行う一般社団法人として、高い透明性を確保した事業運営を行うため、引き続き各種内部規則・規程類について、適宜的確に見直しを図るとともに法令・規則等を遵守した。

② 会議の運営

社員総会・理事会・運営委員会等の会議の運営にあたっては、会員・委員等と緊密に連携し、インターネット会議システムを活用しながら、効果的且つ効率的な会議運営を行った。

③ 各種契約締結・管理

鍵管理における関係先との契約をはじめ、各種契約の締結・管理にあたっては、引き続き顧問弁護士、各部と連携を強化し、必要且つ十分な合意形成に努めた。

④ 業務運営の効率化

テレワークの活用、ペーパーレス化の推進等、ワークフローの見直しにより効率的な業務運営に努めた。

⑤ 適正な予算管理

会計監査人及び顧問税理士法人と連携し、適切な区分経理処理を行うとともに、各部と協議しながら運営経費を見直し、経費の圧縮と中期的な見地から経費の平準化を行った。

⑥ セキュリティ管理の強化

情報セキュリティ管理規程に則り、各部と連携して、管理体制を適宜見直しながら、当協議会内の重要物品・重要情報の管理、漏洩防止、防犯等、セキュリティの管理強化に努めた。

⑦ 税制改正への対応

令和5年度下期からのインボイス導入、電子取引の取引情報に係る保存制度の見直し等に適切に対応した。

3. 法人の運営

2023年度に開催された主な会議は以下の通り

区 分	回 数	開催日
社員総会	第22回（臨時・決議の省略）	2023年 5月12日
	第23回（定時）	2023年 6月27日
	第24回（臨時・決議の省略）	2024年 1月31日
理事会	第77回（決議の省略）	2023年 5月12日
	第78回（WEB）	2023年 5月24日
	第79回（電子メール/報告）	2023年 5月30日
	第80回	2023年 6月27日
	第81回（決議の省略）	2023年12月22日
	第82回（WEB）	2024年 3月 5日
運営委員会	第89回（WEB）	2023年 5月23日
	第90回（電子メール）	2023年 5月30日
	第91回（WEB）	2023年 6月26日
	第92回（電子メール）	2023年 7月 4日
	第93回（WEB）	2023年12月19日
	第94回（WEB）	2024年 2月27日

※上記の他、運用委員会、技術委員会を適宜、開催した。